

おぶせまちづくりボイス MACHI VOICE

2008（平成20）年12月18日創刊
© 小布施まちづくり委員会

発行：小布施まちづくり委員会
会長：デイビッド・ヒルトン
事務局：小布施町役場企画財政課
企画交流係
編集：小布施まちづくり委員会
広報委員会

第9回小布施まちづくり語らい座

町長として見た小布施

小布施人として見た小布施 ～一年を振り返って～

講師 小布施町長 桜井昌季さん

この語らい座は小布施のまちづくりをリードしてきた先輩を講師に迎え、小布施町の「これから」を共に語り合う文化サロンです。令和3年12月10日公民館講堂にて町長の桜井昌季さんを講師に第9回小布施

まちづくり語らい座が開催されました。

実は桜井昌季さんに講師として登場していただいたのは2回目になります。平成30年5月に行われた第4回語らい座では「経営者として見た小布施 小布施人として見た小布施」をテーマに、和装姿で登壇し「観光地に何を求めるか」「小布施らしさとは」等についてご講演いただき、参加者は巧みな話術で引き付けられました。

今回は「町長として見た小布施」を切り口にどんな話をされるのかと聞き入ると、話の冒頭、趣味のソロキャンプから始まり、不意を突かれることとなりましたが、活動の広さにも触れることができました。

さて、本題では町長に就任して感じたことや、以前の経営者としての「お客様の幸せ」と町長としての「町民の幸せ」を重ね合わせながら、選挙公約だった「繋ぐ」「整える」「育む」についてご説明いただきました。

その中で須坂長野東インター周辺の土地開発計画にも触れ、この施設に訪れた皆さんが小布施町に寄っていただくこともできるのではないかと、いう前向きな話をされました。

続いて小布施町の未来の姿として「現代の湯治場」を目指してはとの提案がありました。湯治場とは長期間（少なくとも一週間以上）滞留して特定の温泉療法を行う温泉地のことですが、「心と身体が元気になる」ところを現代の湯治場と捉え、小布施町の将来の理想像にしたいとのこと。前回第4回語らい座でも「町全体をリゾートホテルとして考える」と

し、スタッフは小布施町民、施設は町全体、食堂は各飲食店、風呂は温泉施設、診療室は各医療機関、運動施設は自然と各施設と「小布施町は一軒のリゾート宿屋」と話をされており、昔から温めていたものを町長としてその実現に向けたスタートラインに立ったところであると理解しました。

さらに小布施町でできないコンテンツの組み合わせで「病院＋温泉」「食＋自然」「町民＋スポーツ施設」など、一軒のリゾート宿屋に長期間の滞留による湯治場が実現できるのではとのこと。また、小布施町に来る人も小布施町に住む人も癒される空間づくりのために心を元気にする必要があると、「座禅」「対話」「たき火」などのアイテムを加えることや、高山村の町有林にある山の家を対話スペースにしてはとのアイデアも話されました。「心と身体を整える町小布施」で元気になる自分の場所へ帰っていく。そんな現代の湯治場を目指したいとのことでした。

また、講演の後半では、町長としての想いを語るとともに

参加者の質問や意見に耳を傾け、和やかな雰囲気のもと活発な意見交換が行われました。そして、「すべての人にとって豊かで幸せな町」に向かって一年が過ぎました。町民の皆さんのご協力をお願いしたいと最後を締めくくりました。

今年度の事業計画

安全を考える部会

- ・青色防犯パトロール
- ・おぶせ住民防災講座の開催
- ・防災共助アプリ活用等の推進

環境を考える部会

- ・小学校4年生向け土作り＆小布施丸なす栽培
- ・農と食を考える映画上映会＆大林ちぐみ監督を囲んだ座談会開催（共育部会と共催）

交流を考える部会

- ・町青春のつばやき（伝言板）の運営
- ・お絵かき教室

共育を考える部会

- ・脳の発達 小冊子プロジェクト普及活動
- ・農と食を考える映画上映会＆大林ちぐみ監督を囲んだ座談会開催（環境部会との共催）

おぶせ口頭詩の募集

「きつねのしっぽ」実技研修

福祉を考える部会

- ・おぶせ版「自分史・未来日記」の印刷及び製本作業
- ・「自分史・未来日記」の活用方法の検討及び周知活動



おぶせ版

「自分史&未来日記」

福祉を考える部会

約2年間の構想期間を経て、やっと「自分史&未来日記」が完成しました。

一般的には「エンディングノート」の名称でご存じの方も多いと思いますが、巷では終活的なイメージが強い内容の



ものばかりです。終活も大切なこととは思いますが、病院での延命処置の選択や看取り方、お葬式の方法などの内容が殆どです。「一度きりの人生」死に方を決めておけば、楽しくて幸せな生活が送られるのでしょうか？

部会では今まで皆さんが歩んできた人生を「自分史」に書き綴っていただく過程がとても重要と考え、その上で明日以降の新たな人生を希望や夢の実現に向けていただくために「未来日記」に書いていただきたいと考えました。

近年では台風などの自然災害をはじめ、収束の目途すら立たない新型コロナウイルスの蔓延により、生活形態がガラリと変化してしまいました。外出もままならない毎日で、人と人との交流も減ってしまいました。ふさがちな日々を送る中で過去を思い出し、その時々のだったことや実現しなかったことを想いながら生活してみたいかがでしょうか。そんな生活を実現していただくためのツールとして「自分史&未来日記」をご利用ください。

感染の蔓延も収束しましたら、書き方勉強会や集いの会なども順次開催していきたいと考えていますので、大勢の皆様にご参加いただければ幸いです。

食と農を考える映画上映とおはなしの会を共育部会と開催

環境を考える部会

11月7日に映画『一〇〇年ごはん』上映とおはなしの会を開催いたしました。映画の舞台である大分県臼杵市は、先進的な有機農業の実践で知られるまちであります。

臼杵市では、身の回りの有機物を有効に利用し土作り（堆肥製造）センターを設立・運営しています。その堆肥を利用して有機農業、有機野菜が広がり、学校給食にも取り入れられている様子が紹介されました。タイトルにもありますように、時間をかけて地道に活動する市民のみなさんの姿に心動くものがありました。

おはなし会では、この映画を手掛けた大林千茱萸監督をお招きして、これまで国内外約



250力所で行われてきたという『一〇〇年ごはん』上映会や、映画制作から8年を経た現在の臼杵市の様子などをふまえて、健康な暮らしを守るために必要なこと、大切なことを伺いました。

環境を考える部会では、これまでに生ごみリサイクルの堆肥化を進める活動に取り組んできましたが、なかなかうまく循環しませんでした。今、小布施町でもゼロウェイストなど環境問題が取り上げられており、このイベントを機会に、もう一度原点に戻り、小布施町でも生ごみ堆肥化を進めていこうと声が上がっています。のんびりやるつもりはありませんが、一〇〇年かけてでもという想いが沸々と湧き上がっております。

編集後記

2020年度から、2年間まちづくり委員会会長を務めました。その間活動を支援し、参加していただいた皆様に心から感謝いたします。

新型コロナウイルスの広がりのため、いろいろなプログラムやイベントが中止になることは、大変残念でしたが、防災講座、語らい座、映画上映、若者の伝言板など、対策を万全に行うことができ、自分史&未来日記の作成も実を結びました。

4月には、新型コロナウイルスは、普通の風邪になることを願います。そして、新会長がまちづくり委員会を引き継いでこの大事な活動を続けます。

これからもまちづくり委員会をよろしく願います。

（ディビット・ヒルソン）



私のまちづくり委員会 部員リレー

環境を考える部会
新庄直明さん

「環境を大切にすることを通じて、世代を超えて豊かで幸せに暮らせるまちをつくりたいと願い、活動しています！」